

令和3年 **1 2**月の**優しさ**通信



買い物中転倒 店のせい？

水や商品で滑りけが、訴訟相次ぐ

高齢化の進展で事故増 「店・客とも危険認識を」

- * 店舗内の転倒事故を巡って近年、負傷した客が店に損害賠償を求める訴訟が相次いでいます。
 - * 高齢化に伴って転倒により亡くなる人は増加傾向。
 - * 裁判所が判断を下すにあたっては、店側が①事故を予想できたか②回避のための措置を講じていたか — がポイント。
 - * 2016年10月までの約7年間にスーパーを含む商業施設で起きた転倒事故は602件。
 - * 2020年に平らな場所で転んで亡くなった人は7782人。
 - ・交通事故死の約2.1倍、食べ物の誤嚥による死亡の約1.9倍。65歳以上が96%。
- (2021年11月12日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



幼児の吃音 地域連携で 専門家少なく、知見共有

国立障害者リハビリセンターなど 初の臨床指針

- * 国立障害者リハビリセンターなどは、言葉が詰まったり、同じ音を繰り返す幼児期の「吃音」に関する臨床ガイドラインを国内で初めて作成。
 - ・5歳ごろまでに治療の判断をする必要があるとしました。
- * 吃音の子供に対しては、小児科や耳鼻咽喉科の医師らと言語聴覚士が協力して対応するのが一般的。
- * 吃音に関する詳しい知識を持つ医療関係者は国内に少ないのが現状。
- * 吃音は幼児期の1割ほどの子供に生じます。
- * 吃音は8歳以上になると幼児期に比べて改善しにくくなるとされます。

☆幼児期の吃音臨床指針の概要

●吃音の発症など

- * 幼児期の 1 割ほどの子供に生じるが、自然に消えていくことも多い。
- * 悪化したり、学齢期になる 1 年程度前までに改善しなかったりした場合、吃音の専門家に相談することが望ましい。
- * 2 つの主要な治療法があり、いずれも約 7 割に効果がある。

●保護者らができるサポート方法

- * ゆっくり話しかけたり答えやすい質問をしたりするなど、子供が楽に話せるような環境を作る。
- * 幼稚園などでは「他の子の話をよく聞く」といった子供向けルールを設ける。

(2021 年 11 月 18 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



今月の福祉用具ーコミュニケーション関連用具

視覚障がい者のための福祉用具 拡大用具関係

●拡大読書器

- * カメラとモニターをセットにして、拡大した映像をモニター上に映し出すことができる装置。
- * 拡大率は他の拡大補助具よりも大きくなります。
- * 大きな像をモニター上に移せるので、楽な姿勢で見ることができます。

●拡大鏡・弱視レンズ類

①手持ち式拡大鏡

- * 手にもって使う虫眼鏡タイプの拡大鏡。倍率は概ね 2 倍から 15 倍くらい。

②スタンド付き拡大鏡

- * 焦点が固定されているようにスタンドが付いたタイプの拡大鏡。
- * 倍率は概ね 2 倍から 20 倍くらい。

③弱視眼鏡

- * メガネに望遠鏡が組み込まれた拡大鏡。

④単眼鏡

- * 通常は遠くを見る目的で使われる単眼用の望遠鏡。倍率は 4 倍から 10 倍。

(参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキスト・介護用品カタログより)

